

横断的な課題 **人材育成・協議会**

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
研修を進めていくうえで引っかかること	なぜ引っかかるのか	①②を踏まえて他のチームへの質問と希望	意見交換したこと	解決案	到達レベル	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援協議会について ・ 地域課題や連携といってもそれが自立支援協議会へと繋がる受講者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践研修と更新研修とで自立支援協議会に取り組むが差がわかりにくいのか ・ 実践研修の事前課題で、自立支援協議会について調べられているが、協議会に参加している受講生はあまりいない。 ・ 東京都の実情（事業所数や受講者数の多さ）もあるが、受講者層にとって自立支援協議会の存在が身近ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国研修に基づいて構成しているのが前提ではあることは理解した上で、都研修として実践及び更新で内容をすり合わせ、整理できると良いのかも？ ・ 自立支援協議会について、基礎研修での取り扱いは今のままで良いのか？もう少し情報提供した方が良いのか？ 				

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
研修を進めていくうえで引っかかること	なぜ引っかかるのか	①②を踏まえて他のチームへの質問と希望	意見交換したこと	解決案	到達レベル	備考
●基礎研修の演習受講時点で、相談支援専門員とサビ管の違いが理解できていない	●セルフプランの地域も多く、連携がない地域もあるが、講義を聴いてもその違いを理解できていない	●OJTする側に、基礎や実践の講義を視聴後、演習までの期間に理解不十分な部分があれば、それも含めて更新修了者はOJTを行う等の項目を入れるのはどうか？				

横断的な課題 **人材育成・協議会**

[実践]研修検討チーム

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>研修を進めていくうえで引っかかること</p>	<p>なぜ引っかかるのか</p>	<p>①②を踏まえて他のチームへの質問と希望</p>	<p>意見交換したこと</p>	<p>解決案</p>	<p>到達レベル</p>	<p>備考</p>
<p>【人材育成】 ・実践研修でOJTを受けている受講者と受けられていない受講者にばらつきがある ・現在のサビ管が2年のOJTを意識している事業所としない事業所の差を感じる。基礎研終了後に自ら、上司に話をしてもその上司にどの程度意識があるか疑問がある</p>	<p>・OJTを受けられているかどうかで、研修の理解度、演習の取り組みに差がある印象がある ・現在のサビ管が過去に研修を受けた方だとそもそも実践研修を知らないことや2年のOJTの大切さをどこまで周知されているか疑問が残る ・研修は「制度遵守」「加算要件」「標準的な手順」を重視する。 一方、現場は「利用者の多様なニーズ」「職員の経験差」「家族対応」など、制度通りでは動かない現実に直面している ・サービスの質の向上が実践研のねらいであることが十分理解されていない</p>	<p>・OJTを行う側（指導側）へ具体的な内容や指導方法のポイント等の説明があるとよいのではないか、またどのようにその情報を提供すればよいか ・基礎→2年のOJTが必要です。実践→2年のOJTの振り返りと人材育成の必要性を深める。更新→チームマネジメントとSV各研修でOJTに触れているので、浸透していくと思うが、各研修で2年のOJTなどについて、触れてもらうことができるのか？ ・基礎研修が終了した後、受講生の管理者又はサビ管に向けて通知文のようなお願いをする文章※を渡してみる ・基礎－実践－更新研修の表（プログラム）※に学びの到達点を具体的にまとめ、いずれの研修でも提示する</p>				<p>・国研修より ⇒OJTのガイドラインを作成予定（2年くらいかかるかも）</p>

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
研修を進めていくうえで引っかかること	なぜ引っかかるのか	①②を踏まえて他のチームへの質問と希望	意見交換したこと	解決案	到達レベル	備考
更新研修では、スーパービジョン中心に、人材育成に係るカリキュラムが多く、スーパービジョンは人材育成に役立つので、活用してほしい。	更新研修で初めて行うのは勿体ない。基礎・実践研修の確認やブラッシュアップではなく、切り離されている感じがする。	国研修のように実践研修で簡単で良いので取り入れていただけると、更新研修を受ける5年の間に実践できると思われる。 このままでも良いでしょうか。それとも基礎・実践研修でスーパービジョンについて触れる、もしくは更新研修に個別支援計画についての内容を増やすなどのつながりを作る必要があるでしょうか。				

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>研修を進めていくうえで引っかかること</p>	<p>なぜ引っかかるのか</p>	<p>①②を踏まえて他のチームへの質問と希望</p>	<p>意見交換したこと</p>	<p>解決案</p>	<p>到達レベル</p>	<p>備考</p>
<p>【協議会】 ・実践研修で主に扱っているが、受講者の経験から考えるとまだ難しい視点のようにも感じる ・扱うのであれば、経験等から見ても更新研修 ・例えば協議会との関係でどのように福祉制度が変化した等事例をだしてイメージしてもらう ・実践と更新研修のゴールの設定 例えば、実践では自身の地域の協議会と役割を知る。 更新では、4～5年の実務で振り返り、地域を意識したかの確認、今後の関わり方を検討</p>	<p>・実務経験2年で、これからサビ管になる受講者に対して、地域課題について考えるワークは（可能ではあるが）まだ難しそうな印象もある ・モニタリング過程を通して、事業所内だけでは解決できないことも出てくるということを学ぶという目的であれば、現行のままでよいのかと思う ・協議会ごと個人差や地域差がある。 ・新しい事業所が増えている中で、自事業所中心のところが増えてきているので、ゴールを明確にしたい？ ・事前課題は必要だが協議会との絡みを経験する受講生はほとんどいない印象 ・協議会も関わる顔ぶれも固定されているケースが多く、流動性のある会議体でない限り広がりにくい</p>	<p>・現状通り、実践研修での扱いでよいのか ・国研修より、繋がる手立てとしての協議会の活用や相談支援専門員との連携を伝えると示していたため、現行の内容でよいと思う ・実践と更新とで研修の内容の確認、研修の方向性の確認をしたい ・無理に受講生にかわりを持たせなくてもよいかもしれない ・協議会にサビ管部会ができると研修と実践とつながりやすくなるのではないかと</p>				

横断的な課題

人材育成・協議会

[更新] 研修検討チーム

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>研修を進めていくうえで引っかかること</p>	<p>なぜ引っかかるのか</p>	<p>①②を踏まえて他のチームへの質問と希望</p>	<p>意見交換したこと</p>	<p>解決案</p>	<p>到達レベル</p>	<p>備考</p>
<p>・実践と更新で協議会について調べる事が同じである。 国研修でも話しが出たが、協議会になると受講生のテンションが下がる。</p>	<p>・5年経過しての更新研修受講のため、復習を兼ねて同じ内容にしている。 変えた方が良いか。</p> <p>・他人事で興味がない受講生が多くみられる。自分の法人内に委員がいても知らない受講生がいた。自分の地域の協議会は活動していないと話す受講生がいたが、実際自分が委員で活動しているので驚いた。</p>	<p>基礎、実践、更新と各到達目標を決め、それに合った課題を作成すると良いのでは。</p> <p>・身近な存在として活用してほしいので、相談支援研修と同じに、協議会や部会の傍聴または委員から話しを聞く事を課題としたらどうか。</p>				

横断的な課題 **分野の異なる受講者の対応（成人 vs 児童等）**

第 3 回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
研修を進めていくうえで引っかかること	なぜ引っかかるのか	①②を踏まえて他のチームへの質問と希望	意見交換したこと	解決案	到達レベル	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修の演習では就 B が事例になっているため、児童分野はイメージがつきにくい現状はある。そのため、演習に消極的になる人が時々見受けられる。 ・グループワークの際に「成人期の生活の様子がわからない」という意見が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人主体は絶対ではあるが、児童は本人からの声を直接聞き取りにくい。しかしプロセスの理解は同じであるが、このテーマがなかなか解決されない。また他の分野も同じように感じている受講生はいると思われる。 ・児童分野は成人期とは異なる早さの発達・成長がある。個別支援計画作成時には 5 領域を踏まえたアセスメントをすることになっていることもあり「成人とは別」と捉えている受講生も少なくないのではないか。 ・基礎研修では、障害種別や児童/成人といった枠を超えて共通する支援プロセスやマネジメント力を学んでいくということを演習で伝えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修演習で、分野ならではの視点を補完するために、FT コメントを指定しているが、それらを活かし、更に実践研修の OJT 期間に助言指導されたことの課題※の中に、「分野特有の視点で助言指導を受けた事」など入れてみてはどうか？ ・ノートコラム欄や巻末を有効活動できないか。 ・事前学習で成人期の事例を取り扱うことを伝えているが、情報収集できていない。実践・更新それぞれで、児童分野の受講生に対してどのような対応するのが望ましいのか？ ・児童は専門コース別研修があるため、積極的受講をより勧めたい。 				

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>研修を進めていくうえで引っかかること</p>	<p>なぜ引っかかるのか</p>	<p>①②を踏まえて他のチームへの質問と希望</p>	<p>意見交換したこと</p>	<p>解決案</p>	<p>到達レベル</p>	<p>備考</p>
<p>・分野が異なっても同じ「サビ児管」であることはだいたい浸透している印象があるが、受講者の脱落を防ぐための方策は必要な印象がある（児童分野も同じ、異なるなどの説明を加える等）</p> <p>・基礎・実践では事例が成人であるため、どの程度児童分野にふれるかが課題になるが、現状は児童分野に使う時間がないまたは、限られているなかでどの程度各研修でチャレンジできるのか？</p> <p>・浸透、整理されていると感じている。共通する事と異なる事をもう少し伝えていく</p>	<p>・例えば、前回の基礎研修で、「利用者本人が個別支援会議に原則参加」とは、児童期もそうなのかと質問があった</p> <p>・「児童だから成人はわからない」や、それと反対の発言をする受講生がいた。ライフステージを見渡すという考えがなく、働く事業所内の立場でしか考えられていない</p> <p>・受講者が実務に活かしたいと思いつ研修に参加している？が、実際の児童分野に人は実務に活かしているのか</p> <p>・事例において、成人の時期の支援について演習を行うだけでなく、児童の時期の演習を取り入れてみることで、お互いの支援者としての立場が有効に働くかもしれない。一方で、事例が混乱してしまう懸念もある</p> <p>・ライフステージで利用者を点ではなく、線で見ていく事が難しい事</p>	<p>・分野が異なっても同じ「サビ児管」であることを意識してもらうため、実践研修で「分野間の共通点を考える」演習※を入れているが、実践研修での扱いでよいのか、またその内容等について</p> <p>・国研修より、人が人を支援することの普遍性の理解と説明を受けた。実践研のモニタリングの演習を通して、本人にとっての意味ある生活につなげるための演習である。事例を通してライフステージを見せるのはどうか</p> <p>・実践研にあるライフステージ図を、基礎研などでも提示してはどうか</p> <p>・実際に児童分野の方から見ての率直な感想</p> <p>・現在の研修の事例※で工夫できるところがあるのか？</p> <p>・事例において、児童の時期に取り組む演習をすることは、受講生がお互いの強みを生かせるかどうか、または混乱して方向性を見失ってしまうか</p> <p>・児童の事例もあると横断的視点ではありだと思いが、研修の複雑さを生む事はありえそう。</p> <p>移行期支援（つなぎ目） 児童期 → 成人期（就学前から学齢期、卒業後の生活）。 成人期 → 高齢期（老化や親亡き後の生活）。 「切れ目のない支援」の視点で、縦割りを超えた課題整理</p>				

第3回検討会までに①から③について各検討チームで整理、入力してください。

③	②	③	④	⑤	⑥	⑦
<p>研修を進めていくうえで引っかかること</p>	<p>なぜ引っかかるのか</p>	<p>① ②を踏まえて他のチームへの質問と希望</p>	<p>意見交換したこと</p>	<p>解決案</p>	<p>到達レベル</p>	<p>備考</p>
<p>基礎、実践に比べると検証や人材育成がテーマなので、分野の違いは出にくい内容とも感じている。扱う事例について、「中軽度・知的」のが多いのでは。</p>	<p>分野の異なる受講者が参加できる、活発な意見交換の場として活用できる機会になればとも思っている。受講者の理解の前提が異なっていて、サービスや障がい理解など深めた内容にしづらと思うことがある。</p>	<p>専門的に深く理解するという視点が必要か。それとも成人、児童と分野が異なる受講者に対して、共通の視点を明確にする形をさらに進めていけばよいのか。</p>				